農作業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary

夏ネギ

やさいの里営農センター
営農指導員　宇井 文英

栽培の現状

平成29年産の夏ネギの作柄を振り返ると、生育初期（12月）は、暖冬傾向にあったことから生育が進みました。年明け以降は乾燥傾向であったこと、また、春先の低温の影響により、一部では生育が遅れましたが、その後の天候回復により若干細めであるものの、例年並みの出荷となりました。また、一部圃場では病害虫の発生が見受けられ、特にさび病が多く発生し、被害が拡大しました。

本年も、5月出荷分の夏ネギを「プレミアム夏ネギ」として春ネギとの差別化を図り、有利販売に取り組みました。九十九里地域の3JA（山武郡市・ちばみどり・長生）の連携による取り組みで、統一シール（写真❶）を貼付した出荷も今年で2年目に入り、市場関係者への浸透も進んでいます。昨年と比較をして「プレミアム夏ネギ」に取り組む生産者および作付面積が増加し、昨年対比で2倍近くの出荷量となり、管内は早出しの夏ネギ産地として確立しつつあります。

収穫期別作型のポイント

作型別の栽培暦は表❶を参照にしてください。

●5月どり（大型2条トンネル栽培、図❶）

5月出荷には大型2条トンネルを利用します。小型トンネルに比べて日中の高温時間を長く保つことができ、生育を早めることができます。

被覆期間中の生育を確保するため、基肥には緩効性の肥料（エコロング413またはSCネギ専用047。いずれも140日タイプ）を使用し、チッ素成分で17㎏/10aを目安に施用します。また、追肥は高度化成S842を3回に分けて、チッ素成分で12㎏/10aを目安に施用します。

そして、トンネルの上部の穴換気を行ってください。裾換気は、株元に冷気が当たると抽苔を早めます。

●6月どり（小型トンネル栽培、図❷）

6月中旬以降は単価が下がる傾向のため、コストの安い小型トンネルで栽培します。

施肥は2条トンネル同様に施用します。

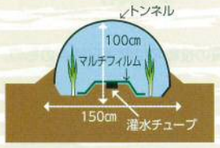
定植後、被覆までに極端な寒さにあたると欠株が発生することがあります。極端に乾燥している場合を除き、できるだけ早く被覆します。

●7月どり（露地栽培）

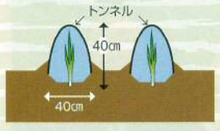
高温下で太りの良い品種を使って、抽苔の危険性がない時期に播種し、7月に収穫する作型です。一般的には「夏扇4号」「夏扇パワー」などを使用します。

播種時期は早ければ早いほど抽苔する危険が高まります。特に「夏扇4号」「夏扇パワー」などの早生品種を使用する場合は、絶対に早蒔きは避けてください。

図❶ 大型2条トンネル栽培



図❷ 小型トンネル栽培



表❶ 作型別栽培暦

作型	品種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
大型2条トンネル栽培	春扇	●		▲	n			n V V V	■ ■ ■		
小型トンネル栽培	春扇 初夏扇 羽緑一本太	●		▲	n			n V V V	■ ■ ■		
無被覆	夏扇4号 夏扇パワー			●		▲		V V V V	■ ■ ■		

●：播種　▲：定植　n：トンネル被覆　V：中耕、土寄せ、追肥　■：収穫

写真❶ 統一シール

タマネギ

大網経済センター
営農指導員　鵜沢 悠人

29年産を振り返って

本年は春先の降雨が少なかったことや、一部圃場で抽苔が目立ったことなどから、玉伸びがやや遅れ気味で推移しました。また、昨年は6月以降に価格が上昇したこともあり、例年よりも出荷ペースが遅く、5月中・下旬以降に出荷が本格化しました。6月以降は大玉傾向が続き、2L級が約50％を占める結果となり、10アール当たりの収量は前年に比べて約2割増加しました。

タマネギの主要病害虫

●べと病（表❷参照）

例年、春先に多発し、減収を招く深刻な病害のひとつです。10～11月の降雨などで土が葉上に付着することで土壌感染し、気温の上昇する春先に降雨が続くと発病します（写真❷）。定植後、年内に予防効果のある薬剤で防除し、年明け以降は、治療効果のある薬剤を選択しましょう。多発してからの農薬防除では、効果があまり期待できないので、発病前からの予防散布に努めてください。

●腐敗病（表❷参照）

近年被害が増えており、べと病と併せて注意が必要な病害のひとつです。

はじめに葉身部に引っ掻いたような傷を生じ、その後、葉の捻出不良・奇形株となり、葉鞘部から腐敗します。降雨が続き、特に水はけの悪い圃場で多発します。強風雨後は早めに殺菌剤を散布するとともに、発生した株は放置せずに早めに除去しましょう。また、育苗床は同じ場所を避け、苗の立ち枯れ病の防除と合わせて土壌処理剤で殺菌してください。

●タネバエ（表❸参照）

幼虫が鱗茎に侵入し食害する為、根が伸びず葉がしおれ、食害を受けた鱗茎は腐敗します。またタネバエの成虫は腐ったものに寄っていく傾向があるため、発生の多い圃場では播種時や定植時に牛ふん、鶏ふん等の有機質肥料は多用しないようにしましょう。

写真❷　タマネギのべと病

6月の分析経過について

残留農薬分析点数　多成分一斉分析　合計6点

- 大玉スイカ……2点
- バレイショ……1点
- メロン（ちばエコ）…1点
- ハグラウリ……1点
- シシトウ……1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 … 合計141点

表❷　タマネギに登録のある殺菌剤

薬剤名	倍率	使用時期（収穫前日数）	使用回数	対象病害	予防・治療
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	3日前まで	5回以内	べと病、灰色かび病、灰色腐敗病 他	予
メジャーフロアブル	2000倍	前日まで	3回以内		予・治
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前まで	3回以内	べと病、白色疫病 他	予・治
バリダシン液剤5	500倍	3日前まで	5回以内	腐敗病	予・治

表❸　タマネギに登録のある殺虫剤

薬剤名	倍率	使用時期	使用回数	対象病害
ダイアジノン粒剤5	3～5kg	播種時または定植時	2回以内	タネバエ、タマネギバエ、ケラ、コオロギ
ディアナSC	2500～5000倍	前日まで	2回以内	アザミウマ類、ネギハモグリバエ、ハスモンヨトウ

※葉タマネギは登録農薬が異なりますので注意してください！